

平成 26 年度第 4 回浦安市介護保険運営協議会議事録

1. 開催日時 平成 27 年 2 月 26 日(木) 午後 1 時 15 分～3 時

2. 開催場所 消防本部 3 階 多目的ホール

3. 出席者

(委 員) 工藤委員(会長)、高木委員、川名委員、西村委員、井村委員、山上委員、大塚委員、高波委員、等々力委員、阿部委員、上辻委員、島貫委員、原口委員、近藤委員

(事務局) 新宅健康福祉部長、大塚介護保険課長、大塚猫実地域包括支援センター所長、佐久間高齢者支援課長、河野高齢者支援課主幹、泉澤健康増進課長、町山健康増進課課長補佐、関根介護保険課課長補佐、池田保険料係長、八田主査、山田主任主事、奥山主任主事、戸邊主任主事

4. 進 行

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議 題

(1) 高齢者保健福祉計画及び第 6 期介護保険事業計画について

(2) その他

5. 会議経過

議題(1)について

委 員: 第 6 期の保険料基準額について、他市との比較を見ると四街道市が突出して低いけどどのような理由からか。

事務局: 直接確認してはおりませんので推測になりますが、居宅サービスの利用率が低いと思われること、約 4 億円もの介護給付費準備基金を投入していることが理由と思われる。

委 員: 平成 27 年 4 月に当代島地区に広域特養がオープンするが、それ以降の施設整備の予定は。

事務局: 第 6 期介護保険事業計画期間内においては、当代島地区の広域特養が最後となり、それ以降の施設整備の予定はありません。ただ、施設を整備するにあたり保険料とのバランスもありますので、今後も総合的に考えていきたいと思えます。

議題(2)について

委 員: 市内に赤字の特養があり、今般の介護報酬の引き下げが行われた場合にさらに約 1% の減収となるそうで、サービスの低下が心配である。市としてどのように考えているのか。

事務局: その特養だけを市として何かするという事は、他の特養との均衡上難しいと考えております。

委 員: 船橋市では認知症患者対応協力機関名簿を作成しているが、本市の状況はどうか。

事務局: 医療と認知症ということではいいですと、市内の医師では、かかりつけ医認知症対応力向上研

修了者が 15 名、認知症サポート医養成研修修了者が5名おります。医療機関では、東葛南部医療圏としては、八千代市と船橋市の2病院が「認知症疾患医療センター」として県より指定を受けております。

委員:和光市では、介護保険事業計画案の中で認知症ケアパスを発表していたり、認知症高齢者の人数を要介護度別と日常生活自立度別で細かく集計しているが、本市は認知症ケアパスをいつ作成する予定なのか、また、認知症高齢者の人数を要介護度別と日常生活自立度別で細かく集計してはどうか。

事務局:認知症対策につきましては、今年の1月に新オレンジプランが発表され、国家戦略として取り組むこととなったところです。他市では先進的な取り組みがあるとのことですが、そういったものも参考にしながら、第6期事業計画期間中にケアパスを作成していきたいと考えております。認知症高齢者の集計は、本市では要介護度別のみですが、日常生活自立度別の集計をしている市があるとのことですので、すぐには難しいですが、そういった分析もしていきたいと考えております。

委員:第6期計画期間中に認知症ケアパスを作成していくとのことだが、船橋市や和光市等、もっと具体的な取り組みをしているところがある中で、それでは遅いのではないか。

事務局:どの市も認知症の専門医が不足しており、対応できるドクターがおらず施策を進めるのが厳しいという面があります。認知症対策についても医師会の先生方と議論を進めておりますが、認知症ケアパスについては体制が整い次第、できるだけ早く作っていききたいと考えております。

委員:高齢者保健福祉計画にある「いのちとこころの支援事業」とはどのような事業か？

事務局:多額の借金を抱えるなど、深刻な状況にあり自殺を考えている方などが、気軽に相談しやすい場所を提供することにより、自殺対策を行っていく事業です。

6. 問い合わせ先

健康福祉部 介護保険課 保険料係 担当 池田・奥山
電話 047-351-1111 内線 1177・1178